

【乳頭損傷】

○はじめに

一人で診療を回らせていただくようになって一か月が経ちました。まだまだ出会ったことのない症例は多くあるため、発生件数の少ない症例は、新人三人で共有することで、知らないことを減らしていけたらと考えています。そこで今月のマネジメント情報では、最近見た**乳頭損傷**について紹介させていただきたいと思います。

○乳頭損傷とは

乳頭損傷は、物理的・化学的な原因で起こる乳頭異常です。原因として以下のものが考えられます。

- ✦ 横臥・起立時に生じた踏傷
- ✦ 乳頭消毒剤の種類や濃度および温度の不適切な使用に起因した皮膚損傷
- ✦ 過度の石灰と乳頭との接触による乳頭先端部のびらん
- ✦ 不適切な新空圧ミルカーでの搾乳及び過搾乳による乳頭口の損傷
- ✦ 有刺鉄線による刺傷や裂傷

○今回の症例

分娩後5か月で、右前の乳頭に2cmほどの裂傷がありました。写真のように血が固まっており、受創からかなり時間が経っていることがうかがわれました。



処置前の状態

○傷口の洗浄

牛を柵場に入れ、処置を行う側の後ろ脚を上げたら、洗浄スタートです。イソジンスクラブを付けたスポンジでゴシゴシ洗っていきます。この時、血の塊もとれるほどの強さで擦ります。泡をアルコール綿で拭いたら、もう一度同様に洗浄を行います。少しでも感染が残っていると予後に大きくかわるため、無菌的になるまで根気良く洗います。

○デブリードマン

デブリードマンとは、感染・壊死組織を除去し、傷口を清浄化することです。傷口が清浄化していないと、傷の治りが妨げられ、うまく癒合しません。今回は、メスの刃先で壊死組織を除去し、傷口の清浄化を行いました。生理食塩水にバイアルイジェクターをつないで、そのまま針先から生理食塩水を出しながらデブリードマンする方法もあるそうです。

○傷口の縫合と管理

今回傷口の縫合には、スキンステープラーを使用しました。これはホッチキスに似たものであり、皮膚などを縫合する際に用いられます。このスキンステープラーで傷口を止め、排乳ができるようAチューブを取り付け、包帯を巻きました。その後、搾乳の度に包帯を外し、Aチューブにキャップを取り、排乳させたら、包帯とキャップをして清潔に管理していただきました。経過は次ページのようにになりました。



Total Herd Management Service



処置 6 日後

この後抜糸し、1 週間消毒と排乳を繰り返していただきました。



処置 14 日後

上の写真は処置から 14 日間経過したものです。かさぶたが剥がれ、傷がきれいに癒合しました。牛も搾乳時痛がる様子もありませんでした。この後、A チューブを抜去しました。乳頭口が開いた状態にあるため、3 日間乳房炎軟膏と包帯を続けてもらうことになりました。

○ポイント

乳頭損傷の治癒を左右するポイントは獣医師の熟練度もさることながら、損傷部位、範囲、深さ、乳房炎の有無、汚染度、受傷からの時間が関与します。また、受傷した後、一度でもミルクにかけてしまうと、予後に大きく影響します。そこで乳頭損傷を発見した際はいち早くご連絡いただくとより多くの症例を治癒に導くことができるのです。また、何よりも今回これほど傷がきれいに癒合

したのは、搾乳の度、適切な排乳・包帯を地道に繰り返して下さったおかげであると思います。ありがとうございました！

津曲歩径



Total Herd Management Service